

# 2021 0 コマ目の記録

2021年6月7日(月)~6月13日(日)

## 栽培中の植物

- |          |           |               |
|----------|-----------|---------------|
| ● シソ     | ● バジル     | ● サルビア・コクシネア  |
| ● バジル    | ● マリーゴールド | ● サルビア・ファリナセア |
| ● センニチコウ | ● ペチュニア   | ● ヒャクニチソウ     |
| ● コリウス   | ● サルビア    | ● ヒマワリ        |
| ● ミレット   | ● ナスタチウム  | ● コキア         |

## 栽培管理内容

日時	天気	気温(°C)	管理・植物の様子・指導
		最高(°C)	
		最低(°C)	
6/7(月) 8:30	晴れ	気温(22°C)	<p>1. 管理</p> <p>1) 灌水： ・温室内の植物すべて →葉に張りがなくポットの重さも軽く、土が乾燥しているため →分区園圃場のすべての野菜 土が乾燥しており、水切れを予防するため</p> <p>2) 温室内のペチュニア花殻摘み</p> <p>スペーシング(トレイ内のポット間を広げるため)：すべて →ポットを置く間隔を広げ、日照と通気を確保しカビの発生を予防するため</p> <p>3) 遮光カーテンを手動で閉める(8:25) →直射日光が強いと蒸散が過剰に促され水切れや水不足になるため 遮光カーテンを自動に戻す(17:50)</p> <p>4) 分区園圃場のキュウリにウリハムシ出現。 →食害になるため物理的駆除</p> <p>5) 園芸療法ガーデン定植後、自動灌水が行われておらず植物たちが水切れしていたため、手灌水を行う。(8時頃) →定植後は、環境の変化や定植時に根を触るため植物たちに変化が起こる可能性高く植物たちの状態や灌水に注意し観察する必要がある</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>水が下がっている ヒャクニチソウ (8時頃)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>手動にて灌水後、植物たちに水が行き渡りイキイキしているヒャクニチソウ (12時頃)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <p>日当たりの良い場所に植わっているヒャクニチソウに水切れあり。 手灌水を行った(17:30)</p>
		最高(29°C)	
		最低(19°C)	

			<p>6)自動灌水が破損しており豊田先生・上地先生に伝達 →破損している自動灌水付近の植物たちは手灌水(ジョウロ)となる</p> 
<p>6/8(火) 8:30</p>	<p>晴れ</p>	<p>気温(23℃) 最高(31℃) 最低(17℃)</p>	<p>1. 管理</p> <p>1) 温室内の灌水：朝はせず夕方(17:10)ヒマワリ・ヒヤクニチソウ水やり →葉や花をたくさん付けている植物は日光があたる面が多く、日光を吸収する量が多くなり体温が上がる。 そのため、体温を下げようとして、土から水分を摂取し蒸散量が増える。しかし、3号ポットではポット内の水分量が足りず蒸散に追い付かず水切れがおきたと考える</p> <p>2) 遮光カーテンを閉める(8:30) 自動運転に切り替え(17:30)</p> <p>3) 温室内の全ての植物に置肥錠剤肥料小粒(約0.8g)プロミック施肥 →株式会社ハイポネックスジャパンが発行しているハイポネックス業務用製品カタログにて、鉢物専用肥料錠 PROMIX の肥効期間花壇苗3寸は、置肥錠剤肥料小粒(約0.8g)1錠3週間~1ヵ月であると記載されており、前回配置した植物たちの肥効期間から1ヵ月たっているため追肥とする ・肥料を一度も与えていない植物に施肥するため</p>  <p>2. 豊田先生と分区園圃場の観察</p> <p>1) 畑の土の表面が乾燥していても指を土の中に入れて湿っていたら水をあげず様子観察とする 灌水は、葉の角度で確認! 畑は甘やかず、乾かし気味に育てることがコツである</p>

→朝は分区園圃場の植物たちに灌水せず、夕方に土の中が乾燥していたため灌水

2) トマトやキュウリを誘引後(6/5)、上部が垂れてきているため誘引し直す

つるを曲がらせず、まっすぐに誘引することで根からの水分を上部にはやくおくることができ、野菜をお辞儀させずその都度誘引しなおす必要がある

※キュウリやトマトなどの誘引を用いた園芸療法は毎日畑をみにくことで移動時の歩行により活動量(Mets)が増やせることを豊田先生よりご指導頂いた



3)ズッキーニの迷彩柄は病気ではなく、品種の特性である



4)ミニトマト：上部にいくほど実の付きが悪い

3号ポットに植わっている時間が長かったため植物にとって環境が不十分であり成長に影響があらわれたと考える

下部の実の付き方



上部の実の付き方



5)畑の除草

モモイロヒルザキツキミソウが畑の周りに咲いており、土の養分や水分を奪うため除草を行うように助言を頂いた



～ヒルザキツキミソウとモモイロヒルザキツキミソウの違い～

・ヒルザキツキミソウ

→開花初期は白く淡桃色に変わる

・モモイロヒルザキツキミソウ

→開花初期から淡桃色

※淡桃色の状態では花がほぼ同じであり判断が難しい

(畑のツキミソウは、開花初期から淡桃色であったためモモイロヒルザキツキミソウと判断)

3. 豊田先生と園芸療法ガーデン観察

園芸療法ガーデン：自動灌水開放(9時頃)

自動灌水閉じる(12時頃)

園芸療法ガーデンの冠水用ポンプの水は

農業用水を使っており、

ため池の水をポンプで排出している。

(ゴミの濾過を行っているがゴミが残っていることがある)

今の時期は田に水を使っているため、自動灌水の水圧が下がっている。

→自動灌水の蛇口を全開にしても自動灌水の水圧がかかっておらず、排水量が少ない。



			<p>・一部のヒマワリ(ダイセツザン)に水切れが続いているため底面給水に変更</p>  <p>→底面給水後は一部のヒマワリ(ダイセツザン)の水切れなく経過</p> <p>2)園芸療法ガーデン灌水：自動灌水開放(8：30) 自動灌水破損部は手灌水 自動灌水閉じる(12時頃)</p> <p>3)遮光カーテンを手動で閉める(13：25) →遮光カーテンを自動に戻す(17：30)</p> <p>4)園芸療法ガーデン周辺草抜き(8：30) →電気柵に雑草が触れており漏電の危険があるため</p> <p>5)分区園圃場の灌水 朝(8：30)は土の中が湿っており灌水せず 夕方(17：30)は土の中が乾燥していたため灌水</p>
<p>6/10(木) 8:30</p>	<p>晴れ 時々曇り</p>	<p>気温(22℃) 最高(35℃) 最低(19.5℃)</p>	<p>1. 管理</p> <p>1) 温室灌水：一部の植物・底面灌水(8:30) サルビア・マリーゴールド・底面灌水していないヒマワリ(17：30)</p> <p>2) 遮光カーテンを手動で閉める(8：30) →自動へ戻す(17：10)</p> <p>3)園芸療法ガーデン：自動灌水開放(8：30) 自動灌水破損部手動灌水 自動灌水閉じる(12時頃)</p> <p>4) 分区園圃場：表面の土は乾燥しているが中の土は湿っているため様子観察(8：30) 土の中が乾燥しているため灌水(17：30)</p>

			<p>2. 害虫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒャクニチソウにコバエが数日前より集り始めた 湿度があり温かい環境でよくみられる体長約1～6mmほどのキノコバエに似ているが少し異なるため虫について詳しい岩崎先生に以下内容を確認し助言を頂いた</li> </ul> <div data-bbox="671 423 896 613" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="906 434 1351 613" data-label="Text"> <p>キノコバエ：キノコ（菌）が発生した場所で多く見かけられたためキノコバエと呼ばれるようになったという説が有力 人に害はない</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キノコバエの色は黒いが、ヒャクニチソウに集まっている虫は、コバチで白い</li> </ul> <div data-bbox="692 725 1209 1088" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コバチは極めて種類が多く、コバチに間違いはないが名前までは不明</li> <li>・コバチのほとんどは寄生蜂でありアブラムシを駆除しているためヒャクニチソウなどの植物に害がない</li> </ul> <p>・以下の URL 参照 <a href="http://meijo-u.ac.jp">寄生蜂の解説 06.P65 (meijo-u.ac.jp)</a></p> <p>→これらのコバチの働きがビオトープに繋がっていく (ビオトープとは、工業の進展や都市化などによって失われた生態系を復元し、本来その地域にすむ生物が生息できるようにした空間のこと)</p>
<p>6/11(金) 8:30</p>	<p>薄曇り</p>	<p>気温(22℃) 最高(36℃) 最低(20.5℃)</p>	<p>1. 管理</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 灌水 : 底面灌水(8:30) マリーゴールド・ヒマワリ(17:30)</li> <li>2) 園芸療法ガーデン: 自動灌水開放(8:30) 自動灌水破損部手動灌水 自動灌水閉じる(12時頃)</li> <li>3) 分区園圃場: 表面の土は乾燥しているが土の中は湿っているため様子観察(8:30) 土の中が乾燥しているため灌水(17:30)</li> <li>4) サルビア花柄摘み →1番花や2番花が終わりを迎えかけており、他の蕾に栄養を促すため</li> <li>5) 南扉: 強風のため閉める</li> </ol>

		気温(22℃)	1. 管理
		最高(36℃)	
6/12(土) 8:30	曇り	最低(20.5℃)	1) 灌水: 底面灌水 ペチュニア灌水(8:30)
			2) 園芸療法ガーデン: 自動灌水開放(8:30) 自動灌水破損部手動灌水 自動灌水閉じる(12時頃)
			3) 分区園圃場の灌水: 表面の土は乾燥しているが中の土は湿っているため様子観察(8:30) 土の中が乾燥しているため灌水(17:30)
			4) 分区園圃場のキュウリの誘引 ・風や雨・植物の重さにより誘引が緩くなり地面から約50cmまでキュウリが折り畳んだ状態になっており下部が折れていた
			
			・誘引し直すと約140cm高さがあった
			
			→こまめに誘引のやり直しが必要
6/13(日) 8:30	曇り時々 雨	気温(20℃) 最高(26℃)	1. 管理 1) 温室内灌水: 灌水せず(8:30)

		<p>最低(21℃)</p>	<p>→土が湿っておりポットに重さがあるため          ヒヤクニチソウ・ヒマワリ一部灌水(17:30)</p> <p>2) 園芸療法ガーデン:自動灌水開放(8:30)          自動灌水破損部手灌水          自動灌水閉じる(12時頃)</p> <p>3) 分区園圃場の灌水:表面の土は乾燥しているが中の土は湿っている          ため様子観察(8:30)          土の中が乾燥しているため灌水(17:30)</p> <p>4) 遮光カーテンを手動にて閉める(8:10):陽射しが強い          ため          →16時頃:カーテンを自動運転に変更</p>
--	--	----------------	--



枝豆:順調に育っている



ミニトマトアイコ:初実り  
 (味もずっきりとした甘さでよい)